

平成23年 5月30日

文部科学大臣 殿

大学の設置者の所在地	〒606-8501 京都市左京区吉田本町	
大学の設置者の名称	国立大学法人京都大学	
(職名) フリガナ 代表者氏名	(総長) マツモト ヒロシ 松本 紘 (記名押印又は署名)	
大学名 及び機関番号	京都大学	14301

平成22年度研究拠点形成費等補助金(研究拠点形成費(機関補助))実績報告書
(拠点形成実績報告書)

整理番号	I 09	開始年度	20年度	学問分野	社会科学
拠点のプログラム名称 親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点		拠点リーダー名 落合 恵美子		専攻等名(拠点となる大学) 文学研究科(行動文化学専攻)・教育学研究科(教育科学専攻)・人間・環境学研究科(共生人間学専攻)・法学研究科(法政理論専攻)・経済学研究科(経済学専攻)・農学研究科(生物資源経済学専攻)・人文科学研究科・地域研究統合情報センター	
連携先の大学名					
事業推進担当者 計 21名					
フリガナ 氏名(年齢)	所属部局・職名	現在の 専門・学位	役割分担(本年度の教育研究実施計画における分担事項) 等		
(拠点リーダー) 落合 恵美子(53)	文学研究科(行動文化学専攻)・教授	家族社会学 東大・社修	拠点リーダー、政策研究班、学際教育プログラム(家族社会学)		
伊藤 公雄(59)	文学研究科(行動文化学専攻)・教授	文化社会学・ジェンダー論 京大・文修	成果公開部門総括、政策研究班、学際教育プログラム(ジェンダー論、メディア論)		
松田 素二(55)	文学研究科(行動文化学専攻)・教授	地域社会学・社会人類学 京大・文博	教育実践部門総括、フィールド調査班、学際教育プログラム(地域社会学、人類学)		
田中 紀行(49)	文学研究科(行動文化学専攻)・准教授	社会学史 京大・文修	理論研究班、学際教育プログラム(理論社会学)		
富永 茂樹(61)	人文科学研究科(文化生成部門)・教授	知識社会学 京大・文博	理論研究班、学際教育プログラム(知識社会学)		
竹沢 泰子(53)	人文科学研究科(文化連関部門)・教授	社会人類学 ワシントン大・Ph.D.	フィールド調査班、学際教育プログラム(移民研究)		
押川 文子(60)	地域研究統合情報センター(情報資源研究部門)・教授	南アジア地域研究 お茶の水大・文修	研究推進部門総括、フィールド調査班、学際教育プログラム(アジア社会論)		
高橋 由典(60)	人間・環境学研究科(共生人間学専攻)・教授	感情の社会学 京大・文博	理論研究班、学際教育プログラム(感情社会学)		
吉田 純(51)	高等教育研究開発推進センター(全学共通教育カリキュラム企画開発部門)・教授	社会学・社会情報学 京大・文博	数量調査班、学際教育プログラム(社会情報学)		
稲垣 恭子(55)	教育学研究科(教育科学専攻)・教授	教育社会学 京大・教修	歴史研究班、学際教育プログラム(歴史社会学、ジェンダー論)		
岩井 八郎(55)	教育学研究科(教育科学専攻)・教授	教育社会学 大阪大・学修	数量調査班、学際教育プログラム(計量社会学)		
小山 静子(57)	人間・環境学研究科(共生人間学専攻)・教授	日本教育史 京大・教博	歴史研究班、学際教育プログラム(歴史社会学、ジェンダー論)		

新川 敏光 (54)	法学研究科 (法政理論専攻)・教授	福祉国家論・労働政治 トロント大学・Ph.D	政策研究班、学際教育プログラム (社会政策)
秋津 元輝 (51)	農学研究科 (生物資源経済学専攻)・准教授	農業経済学 京大・農博	政策研究班、学際教育プログラム (農村社会論)
若林 直樹 (47)	経営管理研究部 (経営管理専攻)・教授	経営組織論 京大・経博	数量研究班、学際教育プログラム (経営組織論)
杉浦 和子 (54)	文学研究科 (行動文化学専攻)・教授	人口地理学 京大・文博	数量調査班、学際教育プログラム (人口学)
田窪 行則 (60)	文学研究科 (行動文化学専攻)・教授	言語学 京大・博士 (文学)	フィールド調査班、学際教育プログラム (韓国語)
木津 祐子 (50)	文学研究科 (文献文化学専攻)・准教授	中国語学 京大・修士	歴史研究班、学際教育プログラム (中国語)
久本 憲夫 (55)	経済学研究科 (経済学専攻)・教授	労働経済学 京大・博士 (経済学)	政策研究班、学際教育プログラム (労働経済論)
横山 美夏 (48)	法学研究科 (法政理論専攻)・教授	民法 早稲田大・法修	理論研究班、学際教育プログラム (民法)
太郎 丸博 (42)	文学研究科 (行動文化学専攻)・准教授	社会階層論・数理社会学 大阪大・人間科学修士	数量調査班、学際教育プログラム (数理社会学)

拠点全体の補助金交付額			
直接経費及び間接経費の合計		直接経費	間接経費
①+②	(千円)	①	②
148,880		148,880	0
(拠点大学：京都大学)			
(〇〇大学)			
拠点大学の直接経費に占める拠点大学で使用した直接経費の割合			(%)
③ / (①+④) × 100%			100
拠点大学の直接経費	連携機関への委託費	拠点大学で使用した直接経費	他の大学の直接経費の総額
①=②+③	(円)	②	(円)
148,880,000	0	③	④
		148,880,000	0

教育研究拠点形成実績の概要

本拠点は、現代世界が直面する全体的社会変化を「**親密圏と公共圏の再編成**」と捉え、研究、政策提言を行う学際的分野を創設し、人材を養成し、教育・研究両面で協力するグローバルネットワークを構築することを目的とする。欧州のERASMUSを参考とする「アジア版エラスムス・パイロット計画」を実施する。また研究者の研究/生活の両立支援、行政機関・NPO/NGO・メディアとの協働によるキャリアパスの多様化など、若手研究者の支援を行う。平成22年度は、課題発掘・個別研究型プロジェクトの活性化を優先する体制から、理論化・統合化と将来構想を視野に入れた体制への転換期とし、①コアプロジェクトの本格的展開、②グローバル30との連携による研究科横断的な英語講義の体系化、③組織的な若手研究者等海外派遣プログラム「京都エラスムス計画」との連携による若手研究者の海外派遣の拡大、④シリーズ「変容する親密圏/公共圏」、リーディングス等の出版準備などに力を入れた。本プログラム終了後のネットワークの永続化に努め、海外パートナー拠点は**3地域4機関**を加え、16地域19機関となり（別紙1参照：図1）、責任分担の平等化から来年度の次世代グローバルワークショップをソウル大学で開催する。全体として着実に成果があがっており、若手研究者による国際共同研究、海外調査、国際学会での報告は飛躍的に増加しており、人材育成面において顕著な成果が見られる。中間評価では、「現行の努力を継続することによって、当初目的を達成することが可能と判断される」との高い評価をいただいた。中間評価の課題としてあげられた理論化と海外査読誌掲載の増加に対応するためにプログラムを新たに開始するなどの努力をしている。

【運営体制】

- (1) **拠点の運営体制**：最終決定機関である運営委員会（毎月）、拠点メンバーによる拠点会議（毎週）、事務局会議（毎週）の開催。アドバイザー委員の指導・助言。
- (2) **COE教員・研究員・RA・TA等の雇用**（別紙2,3参照：表1）：准教授2名、助教3名、COE研究員5名（継続2名、新規3名）雇用。週2時間勤務の研究員31名雇用（公募）。RA11名・TA3名雇用。特定有期職員1名、教務補佐員3名雇用。（日本学術振興会特別研究員1名雇用）
- (3) **ネットワーク構築**：海外パートナー拠点**16地域19機関**に増加。国際会議、次世代ワークショップ、ビジネスミーティング（12月）。ソウル大学（7月）、台湾大学（9月）交流会。

【人材育成】

- (1) **アジア版エラスムス・パイロット計画による海外派遣と海外招へい**（別紙4,5参照：表2）
若手研究者の海外派遣2名、海外招へい3名、教員の海外派遣4名（3名他資金）、海外招へい10名（4名他資金）。「京都エラスムス計画」による若手研究者の海外派遣95名。
- (2) **次世代グローバルワークショップ**（別紙6参照：表3）：12月次世代グローバルワークショップ（若手研究者海外27名、国内22名、海外アドバイザー19名、京大アドバイザー10名）開催（英語報告原稿のネイティブ・チェック、プレゼンテーション指導、外国語学習補助制度による個人指導）。英語報告原稿収録のプロシーディングス発行。若手研究者による運営。
- (3) **英語論文執筆支援**：国際学会発表や国際雑誌投稿のための**英語論文執筆支援制度**新設。
- (4) **学会発表渡航支援**（別紙7参照：表4）：海外学会発表者**19名**の渡航支援。
- (5) **国際ワークショップ**：8月の若手研究者イニシアティブのソウル大学との**国際研究会「コリアンディアスポラ」**（出版予定）。交流会（7月ソウル大学12名、9月台湾大学26名。）
- (6) **グローバル学際教育プログラム**（別紙8参照：表5）：海外パートナー拠点の教員の英語オムニバ

ス講義、学内教員の学際オムニバス講義。語学科目、英語プレゼンテーションの特別演習により英語発表・論文増加。6研究科2研究所の教員やCOE教員の専門科目。

(7) **キャリアパスの多様化**：大学院生の行政（京都府・滋賀県）の会議やNGO/NPOの運営や会議への参加など、インターンシップの実施。国立女性教育会館との人身取引問題の啓発プログラムの開発。京都新聞との「現代社会とメディアジャーナリズムの現場から」の開講。

(8) **次世代研究プロジェクト**（【研究活動】参照）

(9) 「**リサーチ・ライフ・バランス**」プログラムの研究と開発（【研究活動】参照）

(10) **学位取得者**（別紙9参照：表6）：本拠点で中心的に活動する学生のみ博士号取得者11名。平成20年度～22年度までの本拠点を構成する専攻における学位取得者25名。

(11) **研究人材の創出**：就職好調。研究員5名中2名、助教3名中1名が、大学教員に採用。

(12) **国際的人材育成プログラム**：ステップアップ方式による国際的人材育成体制の確立。

【研究活動】

(1) **リーディングス『アジアの家族と親密圏』**：アジア9地域の収録論文の選択、英訳。

(2) **アジア横断数量調査**：家族の実態・意識調査。ベトナムの実査、カタールの予備調査。

(3) **コアプロジェクト**（別紙9参照：表7）：家族、移動、労働、政策、コミュニティ、メディア、歴史、理論、公共圏に関する15の中核的プロジェクトの実施。

(4) **次世代研究プロジェクト**：公募形式の「次世代研究」7件（別紙10参照：表8）、「次世代研究ユニット」23件（別紙10,11参照：表9）延べ58名の若手研究者への研究助成。

(5) 「**リサーチ・ライフ・バランス**」プログラムの研究と開発（別紙11参照：表10）：京都大学女性研究者支援センターとの「京都大学の男女共同参画に資する調査研究」3件の助成。

(6) **研究成果報告会**：(4)(5)の研究プロジェクトの研究成果報告会の開催。

(7) **研究横断的なコアプロジェクト報告会**：15のコアプロジェクトの報告会の開催。

(8) **国際シンポジウム・セミナー**（別紙11参照：表11）：主催や学会やNGO/NPOとの共催。

※東日本大震災のために未実施のフィルタリング研究会とケアレジーム国際比較研究会を完了した。

【成果公開】

(1) **次世代グローバルワークショップ・プロシーディングス**（別紙12参照：写真1）：次世代研究者47名（日本21名、海外26名）の英文報告論文の発行（執筆指導）。

(2) **リーディングス『アジアの家族と親密圏』**：英語版全6巻の論文選択・英訳ほぼ終了。

(3) シリーズ「**変容する親密圏/公共圏**」（英・日）：6巻分執筆。日本語出版4巻分印刷中。

(4) **ワーキングペーパー**：国際共同研究1点、次世代研究27点（別紙12参照：写真2,3,4）。

(5) **英語学術雑誌**：Journal of Intimate and Public Spheres 第1号の編集、刊行予定。

(6) **成果出版**：研究成果の出版。中国語、タイ語の出版（別紙13,14参照：写真5,6,7,8,9,10）。

(7) **学術論文の発表**：多くの研究成果が発表された（別紙15参照）。

(8) **京都大学オープンコースウェア**：開講科目やシンポジウムのWEB上での公開。

(9) **ビデオライブラリー**：ビデオライブラリー『国境を越える女たち』の編集と教材化。

(10) **社会連携・実践活動**：日本の移民政策の提言の作成や政策提言シンポジウムの実施。

(11) **大学や行政への提言**：女性医師シンポジウム。内閣府による第三次男女共同参画基本計画の答申。京都府、大阪府、大阪市、神戸市、寝屋川市の男女共同参画の基本計画策定。

(12) **日本学術会議**：ジェンダー政策シンポ。「東アジア共同体の学術基盤形成」委員会。

(13) **広報活動**：NL5号、6号（別紙16参照：写真11,12）。OCWや研究業績DBのHPでの公開。

教育研究拠点形成に係る具体的な成果

【世界的な教育研究拠点形成に向けて改善・整備されたこと】

(1) 海外パートナー拠点との連携の一層の強化

海外パートナー拠点との連携ネットワークの更なる強化のため、以下の改善・整備を行った。

海外パートナー拠点の追加：シンガポール、イタリア、ハンガリーの4拠点を追加した。

- 1 アジア版エラスムス・パイロット計画：次世代研究者と教員の交換に加え大航海プログラムの開始で派遣数が急増。将来のアジア版エラスムスの実現に向けて大きく前進した。
- 2 アジアのアカデミックな交流のための知的基盤形成：リーディングス『アジアの家族と親密圏』に収録する論文の翻訳の進展、アジア横断数量調査のベトナムでの実施とタイ調査データの分析開始など、知的共有基盤形成が進展した。
- 3 グローバルネットワークを活用した国際共同研究：コアプロジェクトの本格的進展により、テーマごとの実質的国際共同研究が深化した。
- 4 グローバルネットワークの結節点としての英文ジャーナルの発行：昨年度より刊行を開始した英文ジャーナルは、海外パートナー拠点の研究者との共同編集により、グローバルネットワークの結節点としての役割を果たし始めた。
- 5 連携の成果としての多言語出版：国際共同研究の成果が英語、中国語、タイ語、スペイン語、韓国語などで出版（一部準備中）。本拠点の成果がそれぞれの社会に還流している。

(2) 教育研究のグローバル化を促進する学内体制の整備

他のプログラムも併用しながら、世界的拠点にふさわしい学内体制作りを進めている。

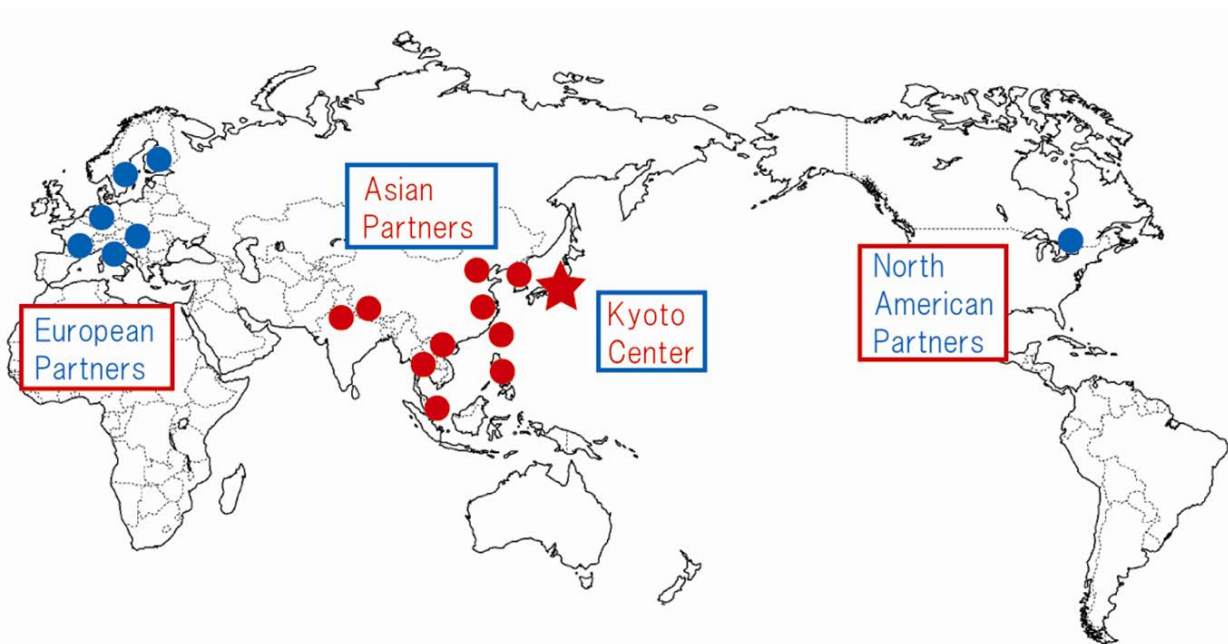
- ① 研究科横断的連携による大航海プログラム「京都エラスムス計画」の実施：本拠点を基盤に実施運営し、アジア版エラスムス実現に向け大きく前進した。
- ② 研究科横断的な英語プログラム構築：海外のエラスムス招聘教員による英語オムニバス講義を研究科横断的に履修可能にしたほかグローバル30に関わる英語講義を準備した。
- ③ 文学研究科中期目標に「アジア親密圏/公共圏研究センター」の設置：本COEの終了後、本学に「アジア親密圏/公共圏研究センター」を設置することが盛り込まれた。

【研究等によって得られた新たな知見】

(1) 家族領域：EASS2006の東アジア家族調査の2次分析と、平成21年度タイ調査結果の比較分析を行い、ベトナム調査も実施した。(2) 労働領域：日本・韓国・台湾における非正規雇用と失業の比較研究の打合せを行った。階級構造の変容、性別職域分離、ライフコースという3つの論点の重要性を確認した。(3) 移動領域：受入国の福祉レジームにおける移住労働者の役割の重要性を日本・台湾・韓国において国際共同研究を進め、成果を12月の国際会議で発表した。(4) 政策領域：アジアのケアレジームを比較課題としてレビューを行い、海外研究者を招聘してワークショップを開催した。福祉国家の未発達、外国人ケア労働者の雇用、家族主義がアジアのケアレジームの特徴として明らかになった。(5) メディア領域：ビデオ資料などの収集と海外調査を実施し、メディアが果たす「アジア」形成の役割を確認した。(6) 歴史領域：日本、タイ、韓国での文献資料調査とフィールド調査を通じ、日本の漫画を媒介として地域共通の新たなジェンダー・セクシュアリティ文化が生まれつつあり、同時に地域固有の性規範との折衷により、独自の受容の過程が確認された。

(注) 本様式は拠点大学のみが記入。交付申請書で記載した「拠点形成の目的・必要性」、「本年度の教育研究拠点形成実施計画」を踏まえ、原則本様式1枚(A4版)に記入すること。

図 1 海外拠点パートナー拠点

**アジア・パートナー（9地域 11機関）：**

ソウル国立大学 [韓国]、北京外国語大学 [中国]、復旦大学 [中国]、
 国立台湾大学 [台湾]、国立フィリピン大学 [フィリピン]、
 ベトナム社会科学院 [ベトナム]、チュラロンコーン大学 [タイ]、
 タマサート大学 [タイ]、シンガポール国立大学 [シンガポール]、
 デリー大学 [インド]、トリブバン大学 [ネパール]

ヨーロッパ・パートナー（6地域 7機関）：

ユヴァスキュラ大学 [フィンランド]、ストックホルム大学 [スウェーデン]、
 ストラスブール大学 [フランス]、ボッフム大学 [ドイツ]、エトヴェシュ・
 ロラード大学 [ハンガリー]、ハンガリー科学院社会学研究所 [ハンガリー]、
 パドヴァ大学 [イタリア]

北アメリカ・パートナー（1地域 1機関）：

トロント大学 [カナダ]

表 1 人材雇用

【COE 教員・研究員・日本学術振興会特別研究員】

	准教授	助教	研究員	研究員 (短時間)	RA	TA
文学研究科		1	1	9	6	1
人間・環境学研究科		1	1	4	2	2
教育学研究科					1	
法学研究科				2		
経済学研究科				6	1	
農学研究科			1	3	1	
学内（上記以外）				1		
学外	2	1	2	6		
合計	2	3	5	31	11	3

職 名	氏 名	
COE 准教授	安里 和晃	
	森本 一彦	
COE 助教	青山 薫	
	赤枝 香奈子	
	今田 絵里香	
COE 研究員	五十嵐 誠一	
	猪股 祐介	
	中田 英樹	
	平田 知久	
	ライカイ・ジョンボル	
COE 研究員（短時間）	網中 奈美江	城下 賢一
	一宮 真佐子	白崎 護
	猪股 祐介	宋 基燦
	松井(猪股) 智子	竹内 祐介
	于 海涛	田村 早苗
	上尾 真道	土田 陽子
	林(内海) 由華	田 鑫
	江南 健志	戸江 哲理
	蛭原 一平	戸梶 民夫
	吾買尔江艾山(オマルジヤン・ハサン)	中山 大将
	亀岡 恭子	平井 芽阿里
	木村 至聖	柳原 剛司
	小島 剛	山口 健一
	崔 博憲	山本 達也
	櫻田 貴道	渡邊 拓也
櫻田 涼子		
日本学術振興会特別研究員	李 洪章	

【RA】

氏名	所属	研究課題	受入教員	時間
野口寛樹	経済学研究科	NPOの経営学：NPOなどのボランティア中心の自発的組織を対象として、その安定と成長を支える組織能力の問題をアジア等との比較研究	若林 直樹	108
Ernani Shoiti ODA	文学研究科	エスニシティ論 移民研究	竹沢 泰子	58
園 知子	人間・環境学研究科	理論社会学、文化社会学、歴史社会学	田中 紀行	50
西川 純司	人間・環境学研究科	近代日本の物質文化の歴史社会学	杉浦 和子	200
芦田 裕介	農学研究科	農村社会学	秋津 元輝	200
濱（山崎）貴子	教育学研究科	教育社会学、歴史社会学（近代日本における職業婦人のキャリア形成に関する歴史社会学的研究）	稲垣 恭子	60
銭廣 承平	人間・環境学研究科	音楽社会学、音楽哲学	吉田 純	200
谷 紀子	文学研究科	オランダのジェンダー政策の社会学的分析	落合恵美子	185
山本 博子	文学研究科	M.ヴェーバーの行為理論に関する一考察	伊藤 公雄	200
安井 大輔	文学研究科	文化接触領域の食をめぐる比較社会学的研究	松田 素二	200
山本 耕平	文学研究科	科学と技術の社会学	押川 文子	190

【TA】

氏名	所属	補助授業名	受入教員	時間
アリポヴァ・カモラ	人間・環境学研究科	日本教育史	小山 静子	110
高橋 顕也	人間・環境学研究科	社会学理論 社会システム論	高橋 由典	88
デブナール・ミロシュ	文学研究科	グローバル化時代とニューカマー在日外国人の生活戦略	太郎丸 博	100

表 2 エラスムス派遣・招へい

【次世代研究者派遣】

氏名	所属	派遣期間	派遣先
李 洪章	文学研究科博士後期課程	2010年4月19日～8月31日	Seoul National University (韓国)
竹内 里欧	文学研究科非常勤講師	2010年8月4日～9月15日	University of Jyväskylä (フィンランド)

【教員派遣】

氏名	所属	派遣期間	派遣先
青山 薫	文学研究科グローバル COE 特定助教	2010年7月18日～7月30日	University of Vienna (オーストリア) University of Essex, University of London (イギリス)
落合 恵美子*	文学研究科教授	2010年8月20日～10月5日	Stockholm University (スウェーデン)
赤枝 加奈子*	文学研究科グローバル COE 特定助教	2010年9月26日～10月4日	Leiden, The Netherlands (オランダ)
稲垣 恭子*	教育学研究科教授	2010年9月26日～10月4日	Leiden, The Netherlands (オランダ)

*他資金による派遣

【次世代研究者招へい】

氏名	所属	招へい期間
Stephane Antoine HEIM	Strasbourg University (フランス)	2010年4月19日～10月19日
TANG Li	Beijing Foreign Studies University (中国)	2010年4月26日～7月26日
LIM Jae-sung	Seoul National University (韓国)	2010年9月1日～11月30日

【教員招へい】

氏名	所属	招へい期間
Barbara M. HOBSON	Stockholm University (スウェーデン)	2010年4月14日～5月13日
Anuja AGRAWAL	University of Delhi (インド)	2010年5月24日～6月21日
Thanyathip SRIPANA*	Chulalongkorn University (タイ)	2010年5月20日～6月30日
PARK Keong-Suk*	Seoul National University (韓国)	2010年9月1日 ～2011年2月28日
Patricia Mary THANE	University of London (イギリス)	2010年11月8日～12月6日
CHANG Kyung Sup	Seoul National University (韓国)	2011年1月5日～2月4日
Danièle BELANGER	The University of Western Ontario (カナダ)	2011年2月2日～2月24日
SUN Hsiao-Li Shirley*	Nanyang Technological Univeristy (シンガポール)	2011年1月10日～1月24日
Susan MCDANIEL*	University of Lethbridge (カナダ)	2011年1月11日～1月31日
NGUYEN Huu Minh	Institute for Family and Gender Studies (ベトナム)	2011年2月25日～3月10日

*他資金による招へい

表 3 次世代グローバル・ワークショップ

December 11 (Sat), 2010

Rooms: L224		Rooms: L217		Rooms: L212		
8:40-9:55						
Opening Remarks						
Migration: Historical Development		Changing Family Structure		Education as Integration?		
Chair: Patricia LEGOUGE		Chair: Hervé POLESI		Chair: Thijs Alexander VELEMA		
10:00-10:20	Fiona-Katharina SEIGER	Genetic Capital in Claims for Nationality: Activist Discourses on Japanese-Filipino Children in the Philippines	Ryoko SAKURADA	Connecting Places: Women's Circular Networks and Child-Rearing Practices among Chinese Malaysians	Yi-chun CHANG	Are Brothers and Sisters Different?: The Effects of Sibehro Sex Composition on Education Attainment in Taiwan
10:25-10:45	Yohei MARUYAMA	Late-Marriage and Migration of the Generation Born after the 1960s: Marriage Behavior of Women Migrants to the Tokyo Region	Udhab Prasad PYAKUREL	Migration and Changing Family Structure in Nepal	Hiroki IGARASHI	Lifestyle Migration of Japanese Transnational Families in Hawaii
10:50-11:10	Minoru MATSUTANI	Young Japanese Emigrants to Asian Countries: Migration and Their Life Course Planning	Haruka SHIBATA	The Possibility of Social Policy for Preventing Suicide in Compressed Modernity	Jiro MORITA	The "Public" Aspect of Alternative Schools: A Comparative Study on Two "Free Schools" in Contemporary Japan
11:15-11:35	Lisa Maria BRANDÉN	Do Partners Agree on Migration Motives?	Advisor: Minh HUU NGUYEN	Comments	Inna TARANDA	Images of Child Policy in Asia in the Reports of the Special Rapporteur on the Sale of Children: Thinking of Elephants
11:40-12:00	Advisor: Frances WONGYANNAVA	Comments			Advisor: Kousak JUNG	Comments
12:00-12:25 lunch break						
Women, Marriage and Status		Media: Local to Global		Reconstructing Otherness		
Chair: Alessandra MINELLO		Chair: RAJKAI Zsombor		Chair: Jiro MORITA		
13:25-13:45	Yari ZHANG	Study on Women's Political Participation in Asian Society: Focus on China and Japan	Ling-Ying LEE	Middlemen in Shaping Our Reading Culture: An Analysis of the Booksellers and Book-Distribution Systems in Taiwan	Tomohisa HIRATA	Why Is "Immigrant Song" Sung: Internet Cafes and Current Status of "Migrants" in Japan, Hong Kong, and Singapore
13:50-14:10	Li TANG	A Study of the Status of Women in Marriage: A Comparison of China and Japan in the Early Modern Period	Aurélien PASQUIER	Korean Bookbusters: A Success of Globalization	Maitrayee DEKA	Understanding the Limits: The Perceptive, Practical and Imaginative Realm of the Private and the Public Spheres in the Context of the Immigrant
14:15-14:35	Tran Thi Minh THI	Divorce in Rural Areas in Vietnam	Parul BHANDARI	Family, Caste and Community and Its Interface with the New "Middlemen" of Indian Marriage	Hideki NAKATA	The Traditional Eco-Tourism of Indigenous People in the New Public Sphere of Multi-Culturalism: A Case Study of Mayan Indigenous Communities in the Post-Internal Conflicts Era of 21st Century Guatemala
14:40-15:00	Advisor: Rajni PALRIWALA	Comments	Advisor: Pekka KORHONEN	Comments	Advisor: Carolyn SOBRTICHA	Comments
15:00-15:30 coffee break						
Quality of Life in Search		Marring Japanese		Working towards Future		
Chair: Uddhab Prasad PYAKUREL		Chair: Yi-chun CHANG		Chair: Haruka SHIBATA		
15:30-15:50	Montakam CHIMMAMEE	Perception of a "Better Life" of Burmese Migrant Workers in Thailand	Tae Eun KIM	The Crossover between Korean Ethnic Education and Multicultural Education in Japan: Kawasaki, Fureaikei and Ethnic Classes in Osaka	Sun-Young CHOI	The Working Life Histories of South Korean "Male Breadwinners": Condensed Industrialization and the Myth of Proletarian Patriarchy
15:55-16:15	Shayanisawa KULRATTANAMANEEPORN	The Returnees: Life after Returning Home for Thai Migrant Workers from Japan	Milos DEBNAR	Individual Migration, Non-Ethnic Integration and Challenges for the Integration Policies in Japan	Yoko HAYASHI	Reformatting of Working Life and Family Life of Short-Time Regular Female Employees at Period of Child-Rearing
16:20-16:40	Thijs Alexander VELEMA	Returning for a Better Future?: The Impact of International Migration of Scholars on the Taiwanese Academic World	Mukhina VARVARA	Who Is the Threat? Influence of Migration on the Intimate Life of Migrant Wives in Cross-National Couples: A Case of Russian-Speaking Wives in Japan	Tuukka TOIVONEN	What Drives "Post-Materialist" Young Workers?: Towards a Systematic Sociology of Motivational Processes
16:45-17:05	Advisor: Nirmal Man TULADHAR & Yangfang HOU	Comments	Viktoria KIM	Conflict and Strategies in Cross-Border Marriages: The Experiences of Women from the Former Soviet Union and Japanese Men	Advisor: Françoise OLIVIER-UTARD	Comments
17:10-17:30			Advisor: Yasuko TAKEZAWA	Comments		

December 12 (Sun), 2010

Rooms: L224		Rooms: L217		Rooms: L212			
10:00-10:45							
Keynote Speech: Prof. Brenda Yeoh							
Nature or Nurture?		Re-presenting Gender, Sexuality and Network		The Social and Policy Practices			
Chair: Parul BHANDARI		Chair: Inna TARANDA		Chair: Tuukka TOIVONEN			
11:00-11:20	Kohji YAMAMOTO	A Sociological Analysis of the Lysenko Controversy in Japan	Takayo SASAKI	Japanese Mothers with Young Children and Their Internet Use	Xinmin ZHANG	Sources of "Total Population Increased" in <i>National Gazetteer of Qing Dynasty: A Case Study of Jiangsu</i>	
11:25-11:45	Saroj Kumar DHAL	Migration and Identity: A Sociological Discourse	Mari NAKAGAWA	The Effect of Internet Use and Online Networking on Maternal Anxiety in Japan	Maki TAKEUCHI	Possibilities of Social Solidarity and Discrepancy in Contemporary Japan: An Analysis on People's Priority and Attitudes of Social Security Policies	
11:50-12:10	Manko WAKISAKA	Japanese Family Life and Social Work under the Elderly Care Insurance System: An Application of the Becks' Theory	Manko TATSUMI	Fatherhood of Magazines in Contemporary Japan: Child Care of Fathers and the Public or Private Sphere	Catherine Ling MAH	Different and Delicious: Social Dimensions of Alternative Food Networks in Japan	
12:15-12:35	Alessandra MINELLO	Does Early Baptism Matter? Neonatal Mortality in Veneto Region: 1816-1866	Patricia LEGOUGE	Sexuality and Social Relations: The Representations of Sexuality in the French Printed Press	Ákos HUSZÁR	Justification of Social Inequalities: The Bourgeoisie, the Civil Servants and the Unemployed in the System of Social Stratification in Hungary	
12:40-13:00	Advisor: Jens RYDGREN	Comments	Advisor: Carolyn SOBRTICHA	Comments	Advisor: Brj TANKHA	Comments	
13:00-14:30 lunch break							
Transgressing Identity		Away from Care?		<p style="text-align: center;">PROGRAM</p> <p style="text-align: center;">The 3rd Next-Generation Global Workshop</p> <p style="text-align: center;">at Faculty of Letters Main Bldg., Kyoto University</p>			
Chair: Fiona-Katharina SEIGER		Chair: Lisa Maria BRANDÉN					
14:30-14:50	Jaesung LIM	Remembering War at the Position of an Aggressor: Sociological Analysis to the Japanese Peace Museums	Chantakam TUNCHARENPANICH			Impact of Parental Migration on Children Left Behind: Experience in Thailand	
14:55-15:15	Min-Young SONG	A Comparative Study of Korean and Japanese: People's Changing Family Norms	Choy Fong Theodora LAM			Transnational Migration and the Changing Dynamics of Care: Views from Returning Migrants and Those Left Behind	
15:20-15:40	Wen-Lan LIN	Adolescent Soldiers: A Preliminary Observation on the Sport Socialization of Indigenous Baseball Players in Taiwan	Hervé POLESI			(Wo)manpower for Long-Term Care: Consistency of Social Relations and Migration, thru Time	
15:40-16:00	Advisor: Weihong ZHOU	Comments	Hyunok LEE			The Political Economy of Cross-Border Marriage: Economic Development and the Crisis of Social Reproduction in South Korea	
16:00-16:20			Advisor: Patcharavala WONGBOONSIN			Comments	
16:20-16:50 coffee break & video presentation							
16:50-17:50							
Evaluation and Administration							

表 4 学会発表渡航支援

	氏名	開催期間	国際学会名（開催地）
1	Tran Thi Minh Thi	22年5月6日～7日	Marital Dissolution in Asia (Singapore)
2	坂梨 健太	22年6月22日～24日	International Conference on Congo Basin Hunter-Gatherers (Montpellier, France)
3	Steven McGreevy	22年6月27日～30日	Biochar 2010: US Biochar Initiative Conference (Iowa, USA)
4	長坂 真澄	22年7月4日～9日	International Conference: Readings of Difficult Freedom (Toulouse, France)
5	平田 知久	22年7月11日～17日	XVII ISA World Congress of Sociology (Gothenburg, Sweden)
6	妙木 忍	22年7月11日～17日	XVII ISA World Congress of Sociology (Gothenburg, Sweden)
7	長坂 真澄	22年7月19日～21日	The 2nd DERRIDA TODAY International Conference (London, UK)
8	馬 枚	22年9月2日～6日	台湾大学学生交流ワークショップ（台北,台湾）
9	Milos Debnar	22年9月6日～7日	Re-thinking Global Society (Leeds, UK)
10	中田 英樹	22年9月6日～10日	Asian Rural Sociology Association, 4th International Conference (Legazpi City, Philippines)
11	本田 恭子	22年9月6日～12日	4th International Conference of Asian Rural Sociology Association (ARSA) (Legazpi, Philippines)
12	坂梨 健太	22年9月22日～24日	4th International Conference of Asian Rural Sociology Association (Legazpi, Philippines)
13	Tuukka Toivonen	1. 22年10月5日 2. 22年10月3日	1. Policy Innovations for Successful Societies: Canada-Japan-Korea Social Policy Research Collaboration Workshop 2. 23rd Annual Conference of the Japanese Studies Association of Canada (Vancouver, Canada)
14	中田 英樹	22年10月11日 ～12日	2nd International Conference of Globalization and Migration (Chiapas, México)
15	村川 淳	22年10月11日 ～12日	2nd International Conference of Globalization and Migration (Chiapas, México)
16	中島 満大	22年11月18日 ～21日	35th Annual Meeting of the Social Science History Association (Chicago, USA)
17	上尾 真道	22年11月22日 ～25日	III Annual Meeting International Society of Psychoanalysis and Philosophy (Sao Paulo, Brazil)
18	中原 由望子	22年11月27日	The 18th Annual Congress of Gerontology. Hong Kong Association of Gerontology (Hong Kong)
19	山本 達也	23年3月31日 ～4月3日	The Joint Conference of AAS and ICAS (Honolulu, USA)

表 5 平成 22 年度カリキュラム

2010年度GCOE関連科目

科 目		題 目	担 当
基礎講義		日本語学際リレー講義 「親密圏と公共圏の再編成」	落合恵美子 水谷雅彦 中村俊春 今田絵里香 青山薫 安里和晃 太郎丸博 富永茂樹 森本一彦 田中紀行 赤枝香奈子 田窪行則 竹沢泰子 伊藤公雄
		海外研究者による英語リレー講義 Reconstruction of the Intimate and Public Spheres	Barbara M. HOBSON (Stockholm Univ.) Anuja AGRAWAL (Univ. of Delhi) Patricia Mary THANE (Univ. of London) Kyung Sup CHANG (Seoul National Univ.)
専門講義	A群 (理論)	トクヴィル・モメント	富永茂樹
		行為論と社会分析	高橋由典
		重力モデルと空間行動に関する諸問題	田中(杉浦)和子
	B群 (歴史)	歴史社会学	稲垣恭子
		人間形成史論	小山静子
	C群 (計量)	社会調査の意義と作法	岩井八郎
		社会調査における多変量解析の利用	
		調査企画・設計実習 多変量解析実習	太郎丸博
	D群 (フィールド)	人種・エスニシティ論	竹沢泰子
		地域社会研究における質的調査の技法	秋津元輝
		欧米における農村・農業社会学および農業倫理研究の最前線	
		質的調査法の可能性	
		先住民族と資源をめぐる領域編成	森本一彦
	E群 (政策)	福祉国家の政治経済学	新川敏光
		日本企業の組織と行動	若林直樹
		社会政策論	久本憲夫
		若者問題の社会的構造	落合恵美子
		グローバリゼーションと人の国際移動	安里和晃
F群 (情報・メディア)	現代社会とジャーナリズム	伊藤公雄	
	情報社会ネットワーク論	吉田純	
	社会情報学の諸問題		
基礎コミュニケーション	英語 (Political Economy of the Demographic Transition and Later Life in Korea)	Keong-Suk PARK (Seoul National Univ.)	
	中国語 (現代中国の社会問題をめぐる言論状況)	小野寺史郎	
	独語 (近代の社会的ディスクリス)	田中紀行	
	仏書講読	田中祐理子	
特別演習	英語による報告・討論トレーニング	ブルース・ホワイト (同志社大学)	
専門演習	「第2の近代」の比較社会学	落合恵美子	
	ヴィジュアル・ソシオロジーの可能性	伊藤公雄	
	比較文化行動論の諸問題	松田素二	
	ブルデューの社会学理論	田中紀行	

表 6 平成 22 年度 GCOE 学位取得者（京都大学）

研究科	氏名	授与年月日	博士論文題目
文学	有菌 真代	平成22年9月24日	国立ハンセン病療養所における集合的实践 —政治的实践・文化的实践・生活实践を事例として—
文学	片田 朝日	平成22年11月24日	子どもの相互行為とジェンダーの社会学的研究 —男子の支配と権力行使の探求—
文学	濱西 栄司	平成22年11月24日	新しいグローバル運動の社会学 —経験運動論とメカニズム—
文学	丸山 里美	平成22年11月24日	ホームレスとジェンダーの社会学
文学	Rajkai Zsombor Tibor	平成22年11月24日	「競合する家族モデル」論の構築 —ハンガリー、中国、台湾、日本の家族社会学のテキストを事例として—
法学	城戸 英樹	平成22年9月24日	地方制度改革の比較分析 —政治家と政党による地方政府利益の表出—
法学	安 周永	平成23年3月23日	企業主義的雇用政策の変容 —日本と韓国の比較政治学的分析—
法学	辻 由希	平成23年3月23日	福祉レジームの再編と「家族」 —現代日本におけるケア、家族、教育政策をめぐる言説政治—
経済学	亀岡 京子	平成23年3月23日	研究開発マネジメントにおける評価の役割
経済学	竹内 祐介	平成23年3月23日	植民地期朝鮮の鉄道と商品流通
経済学	福田 順	平成23年3月23日	1990年代以降の日本企業の行動と株主構成の変化 —「株主価格」の受容の観点から—
農学	越智 正樹	平成23年1月24日	場所とコミュニティとの同時創発としての『地元』存立に関する地域社会学的研究—沖縄県西表島における地域開発諸問題を事例として—

表 7 コアプロジェクト

番号	研究領域	タイトル	代表	幹事
1	理論	メディア空間と親密圏/公共圏に関する理論的研究：アジアとヨーロッパの比較研究の試み	富永茂樹	平田知久
2		歴史概念としての親密圏・公共圏の理論的検討	富永茂樹	平田知久
3		モダニティ論からみた公共圏の理論的検討	田中紀行	-
4		アジアの比較家族法	横山美夏	-
5	コミュニティ	コミュニティ・中間圏研究	秋津元輝	-
6		南琉球の言語と文化の記録と保存	田窪行則	-
7	歴史	戦後日本におけるセクシュアリティと親密性の再編	小山静子	赤枝香奈子 今田絵里香
8		アジアの家族と親密圏	森本一彦	-
9	政策	比較家族主義福祉レジーム研究	新川敏光	-
10		アジア福祉レジームの比較研究	落合恵美子	-
11	家族	数量調査から見るアジアの家族と社会研究	岩井八郎	-
12	労働	労働と社会階層	太郎丸博	-
13	移動	グローバリゼーション・人口構成の変化・福祉の再編成と人の国際移動	安里和晃	-
14	メディア	ヴィジュアル・イメージと親密圏/公共圏研究	伊藤公雄・杉本淑彦	-
15	横断	公共圏研究会	安里和晃	-

表 8 次世代研究

研究代表者	所属	身分	受入教員	研究課題	組織
芦田裕介	農学研究科	博士課程	秋津元輝	戦後日本農村における農業機械化と農業労働組織の変容 —親密圏と公共圏の媒介者に注目して—	個人
岩島 史	農学研究科	博士課程	秋津元輝	戦後日本の生活改善普及事業における“農村” “農民”認識の変遷 —公共圏からのまなざしに注目して—	個人
谷 紀子	文学研究科	博士課程	落合恵美子	オランダの育児支援と日本の育児支援の国際比較	個人
朴 沙羅	文学研究科	博士課程	伊藤公雄	戦後東アジアにおける国境管理体制の成立と親密圏の変容	個人
本田恭子	農学研究科	博士課程	秋津元輝	混住化農村における地域資源管理の再編	個人
松谷実のり	経済学研究科	博士課程	松田素二	若年日本人のアジアへの移住を介したキャリア形成に関する社会学的考察 —90年代以降の香港、上海、シンガポールを事例として—	個人
安井大輔	文学研究科	博士課程	松田素二	文化接触領域の食からみる家族と伝統	個人

表 9 次世代研究ユニット

研究代表者	所属	身分	受入教員	研究課題	組織
朝田佳尚	文学部	非常勤講師	松田素二	近代と現代の日本における空間の管理と親密圏の再創造に関する調査研究	共同
一宮真佐子	文学研究科	COE 研究員	秋津元輝	農業・農村と女性表象の親和性に関する研究	個人
猪股祐介	文学研究科	COE 研究員	松田素二	満洲移民における引揚げと親密圏の再編成 —戦後日本社会への再定着を中心に—	個人
上野大樹	人間・環境学 研究科	博士後期 課程	富永茂樹	戦後日本における再帰的近代化と親密圏の構造 変容—家族と恋愛をめぐる言説空間の実証研究 と社会学的モダニティ理論の再検討に向けて—	共同
江南健志	文学研究科	COE 研究員	松田素二	地域社会における親密圏の再編と再創造に関する 社会学的理論研究 —東紀州地域を事例として—	共同
木村至聖	文学研究科	COE 研究員	松田素二	親密圏／公共圏としての炭鉱コミュニティー —産業遺産の表象から—	共同
崔 博憲	文学研究科	COE 研究員	秋津元輝	日本の新しいニューカマーと親密圏 —東南ア ジア出身の外国人研修生・実習生を中心に—	個人
櫻田涼子	文学研究科	COE 研究員	松田素二	都市と故郷の往還的移動による家の維持 —マレーシア華人社会における女性の労働と子 どもの養育をめぐる人類学的研究—	個人
佐々木祐	文学部	非常勤講師	秋津元輝	映像表現における移住者の親密圏表象	個人
土田陽子	文学研究科	COE 研究員	小山静子	公立名門高等女学校の同窓会誌における理想的 女性像の構築 —和歌山市・京都市・神戸市との 比較分析から—	個人
戸江哲理	文学研究科	COE 研究員	伊藤公雄	日本の子育て支援サークルにおけるコミュニケ ーションとネットワーク	個人
トジラカーン ・マシマ	文学研究科	博士後期 課程	伊藤公雄	日本現代女性文化のタイへの輸出 —少女マンガと女性雑誌を中心に—	個人
中田明日佳	文学研究科	博士後期 課程	伊藤公雄	西洋絵画における親密なる男女の表象	共同
中田英樹	文学研究科	COE 研究員	秋津元輝	日本における外国人労働者の生活世界と地域社会 の変容に関する実証的研究	共同
中山大将	文学研究科	COE 研究員	秋津元輝	ポスト冷戦期アジア社会主義圏の女性人口移動	共同

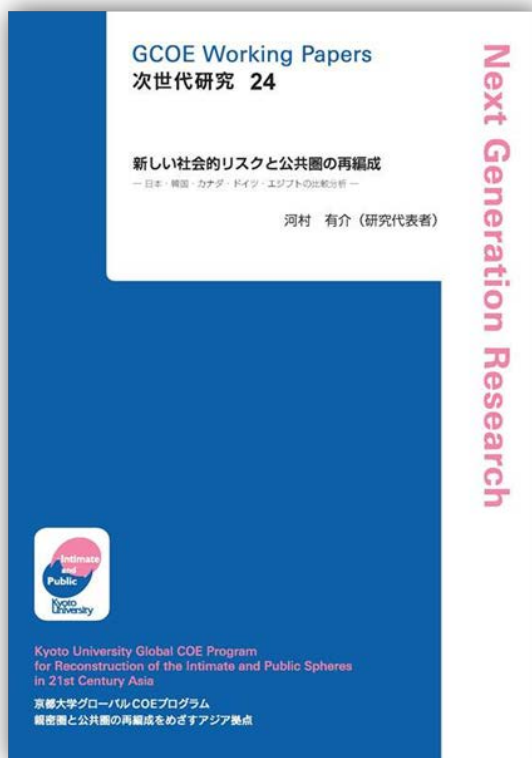
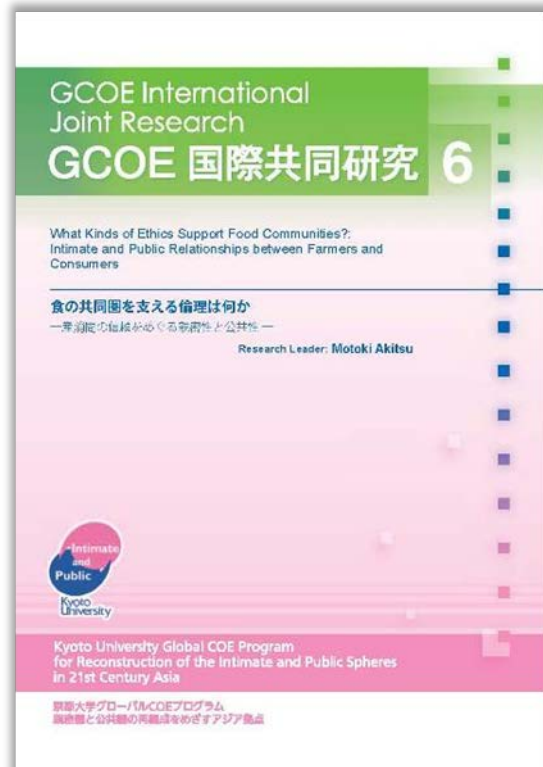
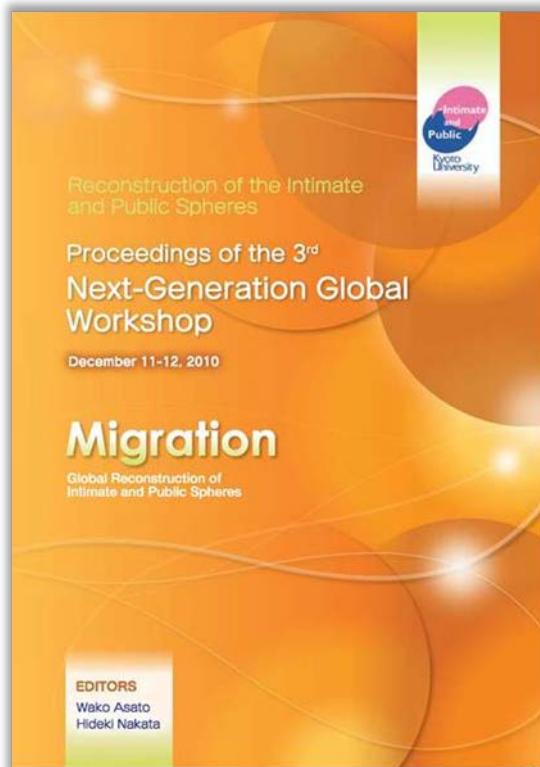
濱西栄司	文学部	非常勤講師	伊藤公雄	ソーシャル・ガバナンスと国際比較	共同
平井芽阿里	文学研究科	COE 研究員	田窪行則	名古屋市における沖縄県出身者の「沖縄的实践」に関する文化人類学的考察 —多元主義的アプローチ—	個人
藤坂恭子	人間・環境学 研究科	研修員	小山静子	第二次世界大戦前の米国カリフォルニア、ロサンゼルスにおける日本人移民女性の近代性の検証	個人
松井智子	文学研究科	COE 研究員	松田素二	越境するタイ人女性移民の親密圏と公共圏の再編成 —ネットワーク形成の実践を中心に—	個人
柳原剛司	文学研究科	COE 研究員	久本憲夫	経済システム変容下におけるハンガリーの社会保障制度と資本主義の多様性	個人
山口健一	文学研究科	COE 研究員	松田素二	在日朝鮮人／在韓中国朝鮮族社会における親密圏・公共圏の変容	共同
山本理子	文学研究科	GCOE 研究 協力者	落合恵美子	フィリピン駐在日本人主婦のメイド雇用がもたらす母親業の再構築	個人
ライカイ・ ジョンボル	文学研究科	COE 研究員	松田素二	トランジショナルな社会における親密圏と公共圏の同時的变化：家族とコミュニティー —中国、ハンガリー、ポーランド、スロバキア、ウクライナを事例として—	共同

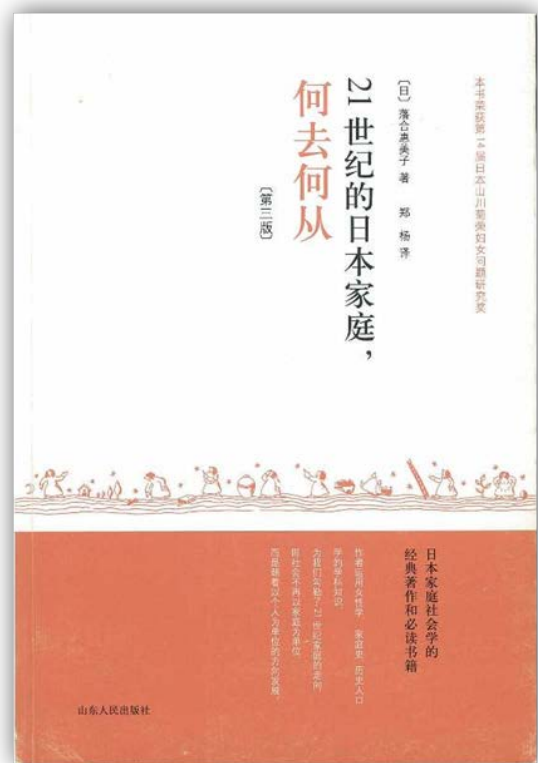
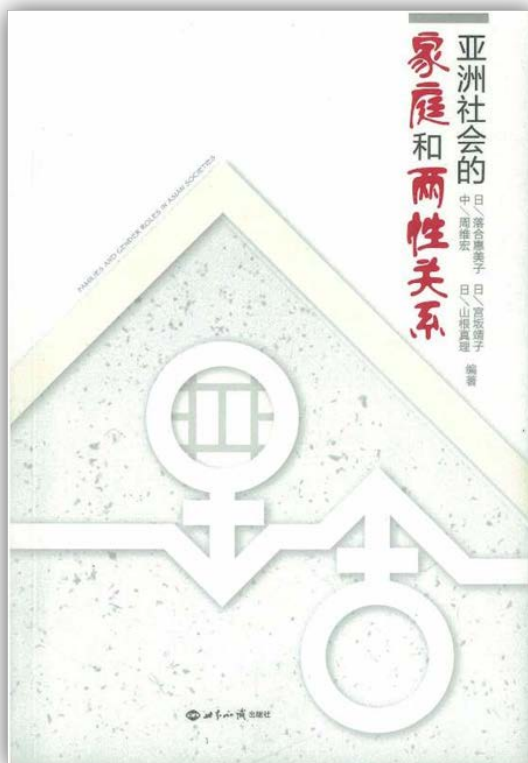
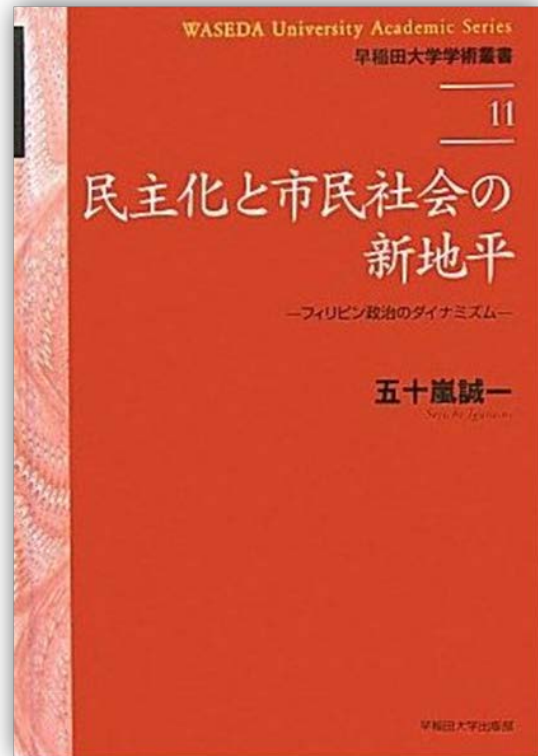
表 10 男女共同参画に資する調査研究

研究代表者	所属	身分	受入教員	研究課題	組織
大越香江	医学部附属病院消化管外科	医員	押川文江	女性医師のキャリア継続のために —医師の勤務体系見直しと新しい医学教育カリキュラムの考察—	共同
浅井 歩	宇宙総合学研究ユニット	特定助教	伊藤公雄	子育て中の親を対象とするアウトリーチ活動のニーズ調査	共同
山根実紀	教育学研究科	修士課程	伊藤公雄 押川文江	京都大学非常勤職員のワークライフバランスについてのインタビュー	共同

表 11 主な国際シンポジウム・セミナー

年月日	会議名
平成 22 年 5 月 13 日	Barbara Hobson 先生（ストックホルム大学社会学部教授）セミナー
平成 22 年 6 月 12 日	International Workshop on “Psychological and Sociological Perspectives on Japanese Youth Issues: Views from Foreign Researchers in Japan”
平成 22 年 6 月 15 日	Anuja Agrawal 先生（デリー大学社会学部准教授）セミナー
平成 22 年 6 月 24 日	Thanya Sripana 先生（チュラロンコーン大学アジア研究所教授）セミナー
平成 22 年 11 月 9 日	International Seminar on “Gender and Poverty: Britain and Japan”
平成 22 年 12 月 3 日	パット・セイン先生（キングスカレッジ英国現代史教授）セミナー
平成 22 年 12 月 13 日	Global COE Symposium “Reconstruction of Public Spheres”
平成 22 年 12 月 14 日	International Conference “ ‘Empty Individualization’ and Familism in Transitional Societies: Hungary as a Case Study”
平成 23 年 1 月 16～17 日	Kyoto University Global COE Symposium “Care Regimes in Asia”
平成 22 年 1 月 27 日	Chang Kyung-Sup 先生（ソウル大学社会学部教授）セミナー
平成 22 年 2 月 21 日	International Seminar on “Media Overview in Thailand”
平成 22 年 2 月 21 日	Danièle Bélanger 先生（ウエストオンタリオ大学社会学部准教授）セミナー
平成 22 年 3 月 8 日	International Seminar “Families in Southeast Asia: In Comparison with East Asia”







主な論文

1. Emiko Ochiai (co-authorship with Kao-Lee Liaw and Yoshitaka Ishikawa), “Feminization of Immigration in Japan: Marital and Job Opportunities,” Yang Wen-Shan and Melody Lu eds., *Asian Cross-border Marriage Migration: Demographic Patterns and Social Issues*, pp. 49-86, 2010
2. Emiko Ochiai, “Unsustainable Societies: The Failure of Familialism in East Asia’s Compressed Modernity,” *Historical Social Research*, Vol.3, pp. 219-245, 2011
3. Kimio Ito, “The Formation and Growth of Men’s Movement,” F. Fujimura-Fanselow ed., *Transforming Japan: How Feminism and Diversity Are Making a Difference*, pp. 108-115, 2011
4. Kimio Ito, “Social Movement Media, 1920s-1970s (Japan),” J. H. Downing ed., *Encyclopedia of Social Movement Media*, pp. 470-473, 2010
5. Tarohmaru Hiroshi, “Income Inequality between Standard and Nonstandard Employment in Japan, Korea and Taiwan,” Sato Yoshimichi and Imai Jun eds., *Japan’s New Inequality*, Trans Pacific Press, pp. 54-70, 2011
6. Taisho Nakayama, “Agriculture and Rural Community in a Social and Familial Crisis: The Case of Abandoned Rural Community and Invisible People in the Postwar Settlement in Shin-Nopporo, Japan,” *Asian Rural Sociology*, IV-2, pp. 531-544, 2010
7. 伊藤公雄「近現代日本社会と『和の精神』—日本人は『集团的』なのか」『国際行動学研究』第5巻, pp. 1-8, 2010
8. 伊藤公雄「CEDAW（国連女性差別撤廃委員会）最終勧告と『男女共同参画基本計画（第3次）』をめぐって」『学問の動向』第15巻9号, pp. 39-41, 2010
9. 秋津元輝「農への多様化する参入パターンと普及への期待」『農業普及研究』15巻2号, pp. 4-10, 2010
10. 秋津元輝「米政策と農村社会政策の接点—制度定着条件の議論をこえて」『農業経済研究』82巻2号, pp. 93-101, 2010
11. 安里和晃「看護・介護部門における人材育成型受け入れの問題点—経済連携協定の事例から」『保健医療社会学論集』第21巻2号, pp. 35-54, 2010
12. 今田絵里香「戦後日本の『少女の友』『女学生の友』における異性愛文化の導入とその論理—小説と読者通信欄の分析」『国際児童文学館紀要』第24号, pp. 1-14, 2011
13. 猪股祐介「オーラリティにおいて当事者性を問う意味」『日本オーラル・ヒストリー研究』第6巻, pp. 49-51, 2010
14. 平田知久「I・カントにおける書物と著作権—現代のメディア環境下における公共圏と著作権を考えるために」『社会情報学研究』Vol.14(2), pp. 67-81, 2010
15. 竹内祐介「戦間期朝鮮の綿布消費市場の地域的拡大と鉄道輸送」『日本史研究』575号, pp. 27-54, 2010
16. 中山大将「樺太庁中央試験所の技術と思想—1930年代樺太拓殖における帝国の科学」『農業史研究』第45号, pp. 53-64, 2011
17. 柴田悠「近代化と友人関係—国際社会調査データを用いた親密性のマルチレベル分析」『社会学評論』第61巻2号, pp. 130-149, 2010
18. 田中亜以子「「妻」と「玄人」の対立と接近—性と愛と結婚を一致させるために妻に求められたこと」『女性史学』第20号, pp. 53-70, 2010
19. 土田陽子「1930年代の高等女学校と旧制中学校における模範生徒像—ジェンダー規範に着目して」『ソシオロジ』第55巻2号, pp. 37-54, 2010

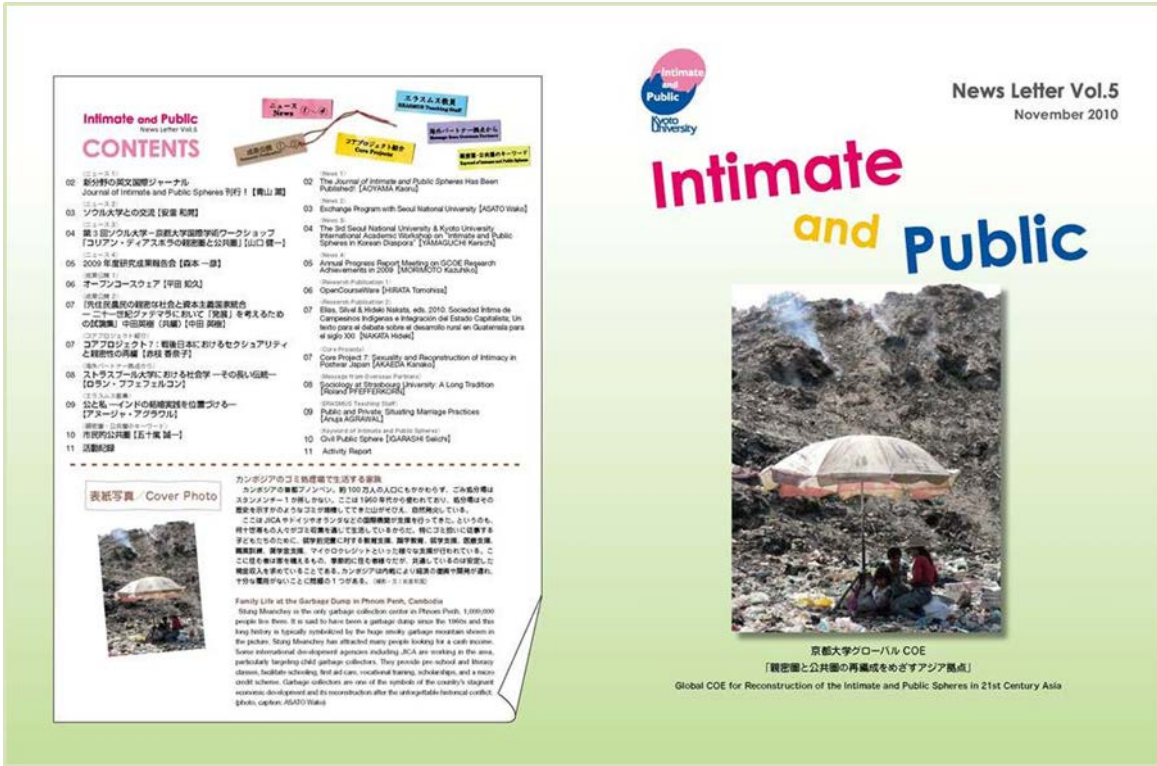


写真 11： ニュースレター5号

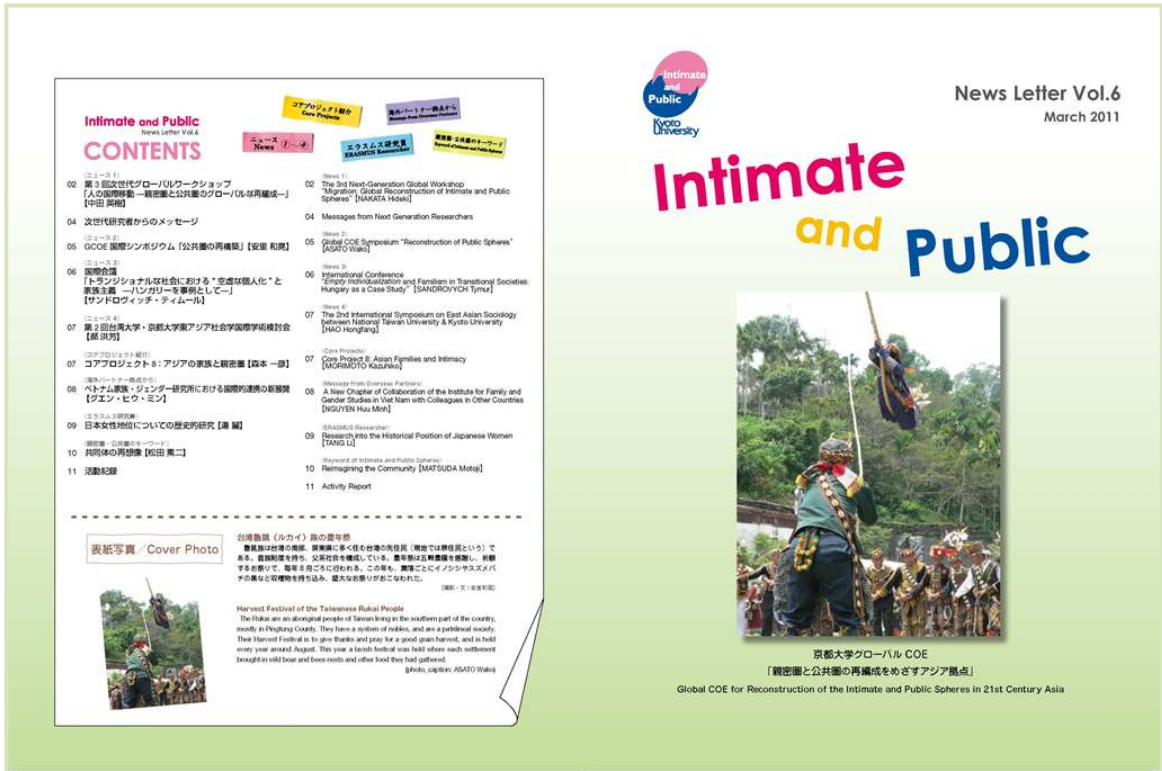


写真 12： ニュースレター6号

資料 1 研究拠点形成費等補助金若手研究者研究活動経費取扱要領

平成 16 年 4 月 1 日
 研究担当理事裁定制定
 平成 17 年 10 月 1 日一部改正
 平成 19 年 9 月 1 日一部改正
 平成 20 年 10 月 1 日一部改正

(目的)

第 1 この要領は、本学における研究拠点形成費等補助金(研究拠点形成費)による若手研究者の自発的研究に必要な経費(以下「若手研究者研究活動経費」という。)を使用する場合に必要な事項を定めることを目的とする。

(選考手続)

第 2 拠点リーダーは、若手研究者研究活動経費を使用する場合には、事業推進担当者(拠点リーダーを含む。)5名以上からなる選定委員会により研究活動計画等の審査を行い、選定した者を記した若手研究者研究活動経費受給候補者申請書(様式第 1)(以下「申請書」という。)により総長に提出するものとする。

2 総長は、前項で提出された申請書により受給者の決定を行うものとする。

(選定人数の上限)

第 3 拠点リーダーは、当該年度内の受給者の選定人数について、予め上限を定めておくものとする。
 2 年度の中途において、前項の選定人数を変更する場合は、若手研究者研究活動経費選定人数変更届(様式第 2)により総長に届け出て、承認を得るものとする。

(受給資格)

第 4 若手研究者研究活動経費の受給者は、次の各号に該当する者とする。

(1) 当該拠点を形成する専攻等で研究を行う大学院博士課程在籍者又は大学院博士課程修了者であること。

(2) 世界的な研究拠点を形成するために必要かつ優秀な者であること。

(3) 他から類似の経費を受給していないこと。

(経費の執行)

第 5 受給者は、本学の会計規程等を遵守し、受入教員を通して若手研究者研究活動経費の執行を行うものとする。

2 受給者は、当該拠点事業に必要な研究活動以外に若手研究者研究活動経費を使用してはならない。

3 若手研究者研究活動経費は、年度を超えて支出することはできない。

(研究活動計画の変更)

第 6 拠点リーダーは、受給者が研究活動計画を下記の要件により変更する場合には、若手研究者研究活動計画等変更届(様式第 3)により総長に届け出て、承認を得るものとする。

なお、その他の要件により変更がある場合は、個別協議とする。

(1) 受入教員を変更する場合。

(2) 経費の流用が総額の 30%以上で行われる場合。

(研究活動計画の中止、研究活動の辞退)

第 7 拠点リーダーは、受給者が受給資格の要件を欠くに至った場合若しくは受給者の異動その他の理由により研究活動の遂行が不可能となった場合には、若手研究者研究活動計画等辞退届(様式第 4)により総長に届け出て、承認を得るものとする。

(支給金額)

第 8 若手研究者研究活動経費の支給限度額は、受給者 1 人に対し、年間 150 万円(大学院博士課程修了者は、300 万円)を上限とする。

(研究活動報告)

第 9 受給者は、当該研究活動終了後、速やかに若手研究者研究活動経費収支簿(様式第 5)及び若手研究者研究活動結果報告書(様式第 6)を当該拠点リーダーに提出するものとする。

(その他)

第 10 若手研究者研究活動経費の執行等にあたっては、「研究拠点形成費等補助金交付要綱」(平成 14 年 4 月 1 日文科科学大臣)、「研究拠点形成費等補助金(研究拠点形成費)取扱要領」等に従って取扱うものとする。

附 則

この要項は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 17 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 19 年 9 月 1 日から施行する。

附 則

この要項は、平成 20 年 10 月 1 日から施行し、平成 20 年 4 月 1 日から適用する。